



キラリ光る地域



▲「結の里たーら」のメンバーと、呼びかけで集まった地域の皆さんが、地域を盛り上げます。

地域と人とを結ぶ

「結の里たーら」(広瀬町奥田原)

戻ってきたくなる地域に

文化祭直前の金曜日、夜。奥田原交流センターからは賑やかな音楽と歓声が聞こえてきます。

文化祭の準備中なのは、4年前に結成した「結の里たーら」の皆さん。子育てが一段落したメンバーを中心に結成した約20人の団体です。代表の戸谷豪良（たに）さんは話します。「小・中学校の時に活動してきた保護者会が、そのまま発展して今の形になりました。名前の由来はUターン

のユートアイで「結(Yu)」そして奥田原の「たーら」。これから進学や就職で都会に出る子どもたちが将来、戻ってきたいと思える地域にしたいとの願いを込めました。

結成のきっかけは、ある地域行事に参加したときのこと。地元のお年寄りから聞いた思い出話に、「こんな狭い地域にもたくさんの思い出がある。子どもたちの思い出をなくさないためにも、地域が存続していくことが必要」と、仲間を募って活動を開始しました。最近では文化祭のステージなどの地域行事に積極的に参加するとともに、学校での読み聞かせにも取り組んでいます。「演出、パソコン、広報など、会員の特技を持ち寄って活動しています。だから、結の里にはスーパー스타はいません」。

コミュニティビジネス

「結の里」は今、コミュニティビジネスも模索しています。そのために魅力ある特産品づくりに挑戦しています。ただ、そこは親心。「都会で暮らす子どもが食事の時



▲出雲大社などにも納められるマコモを使ったマコモ茶づくりをはじめ、しめ縄ストラップなども試作中です。

に故郷を思い出すよう、地元素材を使ったものを送りたい」とふりかけ開発に着手します。着目したのが地元で栽培が拡大中の「マコモ」。健康に良いとされるマコモ入りのふりかけを開発しました。地区の文化祭ではマコモ茶を販売する予定です。

「地域の皆さんに関わってもらいながら地域を盛り上げていきたい。そうすることで子どもたちが地域に興味を持ってくれると思っています」と戸谷さん。

今では子世代のメンバーが加入。20歳の同級生コンビ、戸谷友美さんと糸原陸さんは口をそろえて言います。「普段は関わることもない、地域の人と交流できるのはたーらのおかげ。ずっと奥田原に住み続けたいです」。

編集後記

▼今月号の新春対談で聞いた話。ある保育施設に民放のテレビカメラが入ったとき、子どもたちがカメラに向かって「安来がスキ！」と言ったそうです。テレビの撮影と言えば「このフレーズ」というのが子どもたちに染みついているのでしよう。何年経っても「安来がスキ！」と言ってもらえるといいですね(旬)
▼職員の広報研修の講師をする機会がありました。伝えるためにはどうすればよいか。自分にとっても見直す良い機会になりました。文章や写真はもちろん、読みやすいレイアウトが重要です。しかし、何よりも大切なのは、何のために伝え、どう共感してもらうかということをデザインすることです(9)

安来市の人口と世帯数 H30.11.30現在

人口合計 / 38,948人
(男:18,669人 女:20,279人)
世帯数 / 14,329世帯



古紙パルプ配合率70%再生紙を使用

- 資源保護のため、この広報紙は再生紙を使用しています。
- 広報紙にあなたの写真が載りましたら、差し上げますのでご連絡ください。
- 自治会宛の発送等につきましては、地域振興課(☎23-3067)までご連絡ください。